

よろしく

お願いします

課長 鈴木 百合子

皆様はじめまして。1月にC2病棟よりおおぞら2号館に異動してまいりました。私は助産師として平成元年に聖隷三方原病院に就職し、ほとんどの時間を産婦人科で働いてきました。何百人もの出産の場面で、多くの赤ちゃんとお母さんとその御家族とのすばらしい時間を過ごしてきました。2年間の小児科勤務も経験しているので、おおぞらの利用者さんや家族の皆さんとも何人かは関わりを持たせていただきました。先日懐かしいお顔にお会いすることが出来、利用者さんの成長した姿と御家族の変わらない暖かさに触れ、嬉しい気持ちになると共に月日の流れを感じました。

異動して3ヶ月が経ちますが、聖隷おおぞら療育センターの方針である、個の尊厳、利用者理解と一人ひとりにあった生活の支援に向けて、職員が向かっていることを実感しています。また、日々行われている、利用者さんの喜びや心地よさ、楽しみや興味を引き出すための日常活動も利用者さんの為にと皆がんばって

いる姿を見かけます。

聖隷おおぞら療育センターは、昨年度組織変更や新館建築に伴う、利用者さんと職員の大きな異動があり、慌しい1年であったと聞いています。素晴らしい3号館も完成しましたので、今後は更に利用者さんへ快適な生活を提供し、職員もその専門性を深めていくことができる、やりがいをもてる、そんな職場作りを力注いでいこうと考えています。利用者さんはもちろん、利用者の御家族の皆様にも早く顔を覚えていただくことが出来るよう、努力していきたくと思っています。「出来ることから一つ一つ」「私らしく」をモットーに頑張りますのでどうぞよろしくお願いします。

あすかの

日常活動紹介

川島 希巴江

あすかは全員が人工呼吸器を装着し医療的ケア度の高い13名の利用者が生活するゾーンです。横地分類では、A1ーC5名 A1 8名となりま

す。表情の変化や体の動きの少ない利用者が伝えるかすかな反応に気づき、利用者へ届く刺激や利用者が快と感じることを考え提供しています。

常時開眼しているA1ーCのAさんは、大きな音楽に驚いたように力が入ったり、処置の時に顔を赤くしたり涙をこぼしたりと不快の反応がみ

「横地分類(改訂大島分類)」

「移動機能」、「知能」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

知能レベル					
E6	E5	E4	E3	E2	E1
D6	D5	D4	D3	D2	D1
C6	C5	C4	C3	C2	C1
B6	B5	B4	B3	B2	B1
A6	A5	A4	A3	A2	A1
<small>簡単な計算可</small> <small>簡単な文字・数字の理解可</small> <small>簡単な色・数の理解可</small> <small>簡単な言語理解可</small> <small>言語理解不可</small> <small>特記事項</small> <small>C:有意な眼瞼運動なし</small> <small>B:盲</small> <small>D:難聴</small> <small>U:両上肢機能全廃</small>					
<small>寝返り不可</small> <small>寝返り可</small> <small>座位保持可</small> <small>室内移動可</small> <small>室内歩行可</small> <small>戸外歩行可</small> <small>移動機能レベル</small>					

られます。反対に快の表出は不快の時に比べ見えにくいのですが、眼がわずかに大きくなったたり、顔の表情が緩んだりする事が見られます。日常活動では、外からの刺激を心地良く感じてもらいたいと思ひ、やさしく柔らかな言葉かけやタッチングを提供しました。顔を近づけ語りかけると、表情が緩んだり眼を大きく開くことがあります。また頭を撫でながらの語りかけで眼球がかすかに動き、何かを感じていると思ひました。A1のBさんは、顔を触られるような、苦手とすること不快なことには、顔をこわばらせ険しい表情をします。外に出た時、枯れ葉をふむ音にハッとしたり表情になったりキョロキョロと辺りを見たりすることがありました。やさしい音に注意が向くと考え、日常活動では「レインスティック」を提供しました。「レインスティック」とは中に小豆等が入っている筒状の物で動かすと音が降っている様な音がする楽器です。Bさんの耳元でゆっくり音を鳴らすと「何だろう？」と目を大きく開け表情が止まります。しばらく続けるると目を閉じますが、鳴らすのを止めると「あれ？」という感じで目を開けることが

ありました。やさしい音に心が動くのではと考えます。

あすかの利用者は先にも述べましたが、表出が見えにくく、提供したことが届いているかの評価も難しいことが多くみられます。その中でも、「やさしい」かわわりを大切に利用者へ寄り添い、利用者が心を動かすもの・心地良いと感じるものが提供できる日常活動を考えていきたいと思ひます。



はるかの

日常活動紹介

富田 道子

はるかは医療的ケアが必要とされる利用者と医療的ケアがない利用者が生活するゾーンです。はるかの利用者22名のうち横地分類では、A1